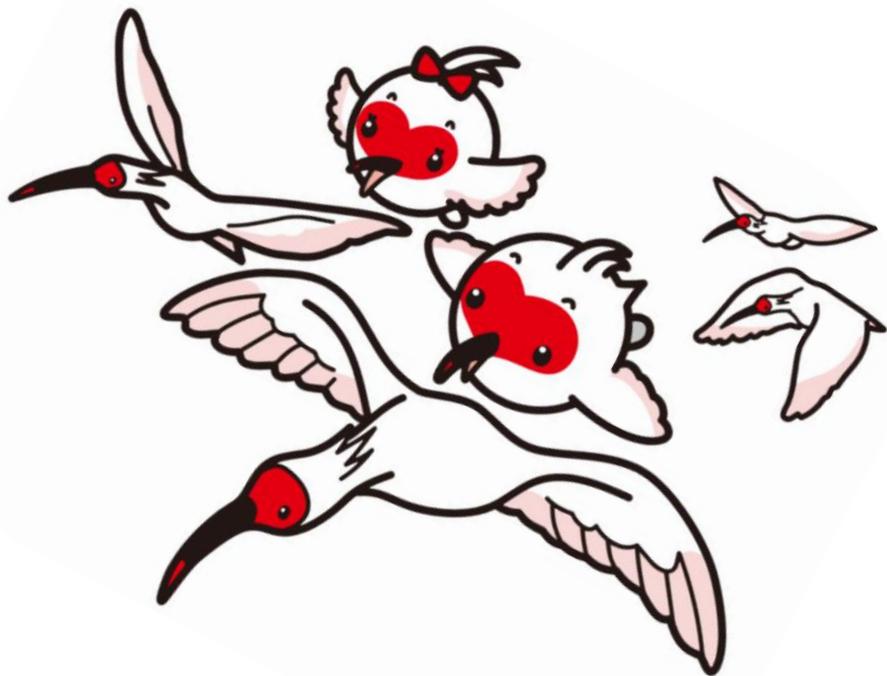




## 活動紹介

### 「分科会からの活動報告」

# 新潟県合同輸血療法委員会 看護部の活動報告



新潟県合同輸血委員会 看護部会



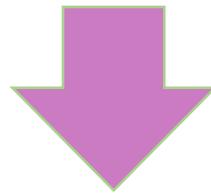
# 今年度 看護部会の活動

7月13日 看護部打ち合わせ会

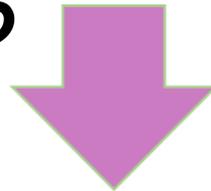


昨年のアンケートについて

→看護部会メンバーのみを対象としていたため、結果として新潟県内看護師における輸血に関する問題点を抽出できなかった



アンケート調査のやり直しを行い、輸血医療現場での問題点の洗い出しを行う



新潟県全土での輸血医療の質の向上や統一化を図る

# アンケート実施



## 看護部会のスタートアップ アンケート

アンケート  
作成

新潟県合同  
輸血療法委員会看護部会

アンケート  
実施

2019年10月

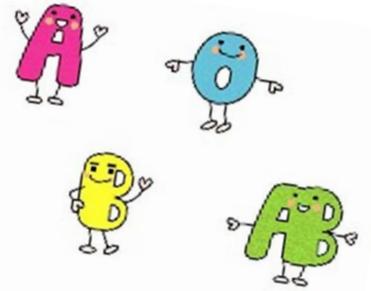
アンケート対象者

看護部会メンバーが所属する  
各施設30名

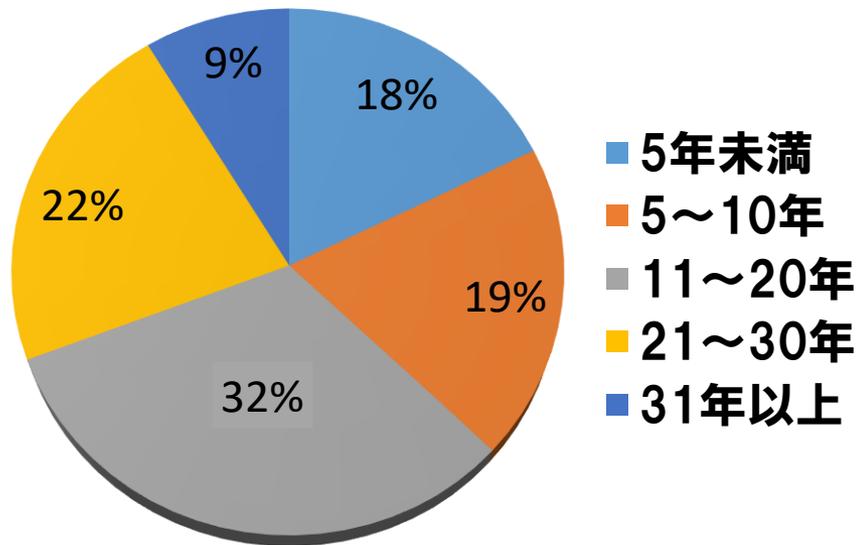
アンケート  
回収率

9/11施設(82%)

# 結果①

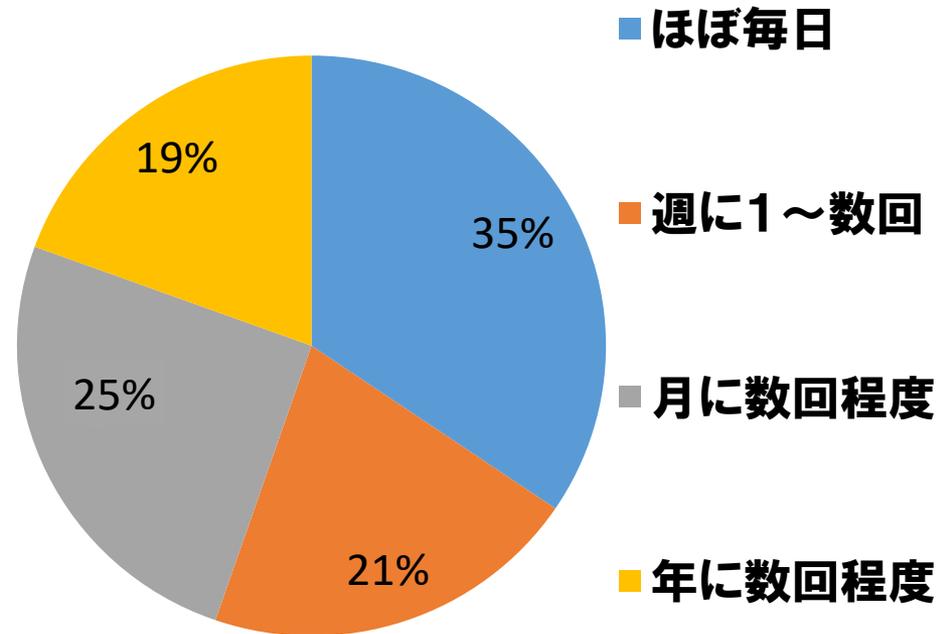


## ☆ 経験年数 ☆



中堅年代が多くを占めているが、幅広い年代にアンケートを実施している

## ☆ 輸血実施の頻度 ☆



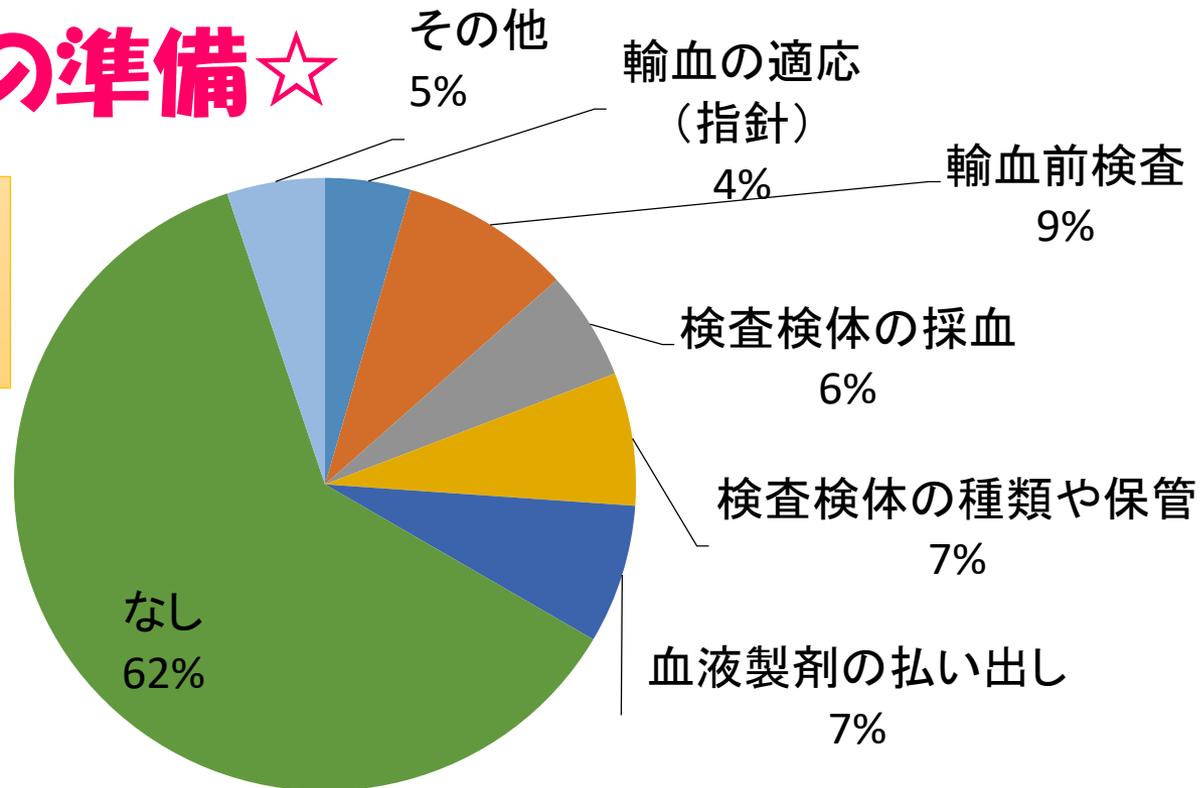
半数以上が輸血に関わる機会が多い部署に所属している。

困っていること

# 結果②

## ☆輸血実施前の準備☆

およそ半数以上は準備において困っていると感じていない。



### 具体的内容

- 輸血の取り寄せに時間がかかる。PCの単位変更など。
- 血型とクロスを別々に採取するのは大変。
- 病院によってオーダー方法、伝票などの処理が異なる。
- 病棟でFFPを溶解すること。
- 慣れない業務、なんとなくでしか理解していない。

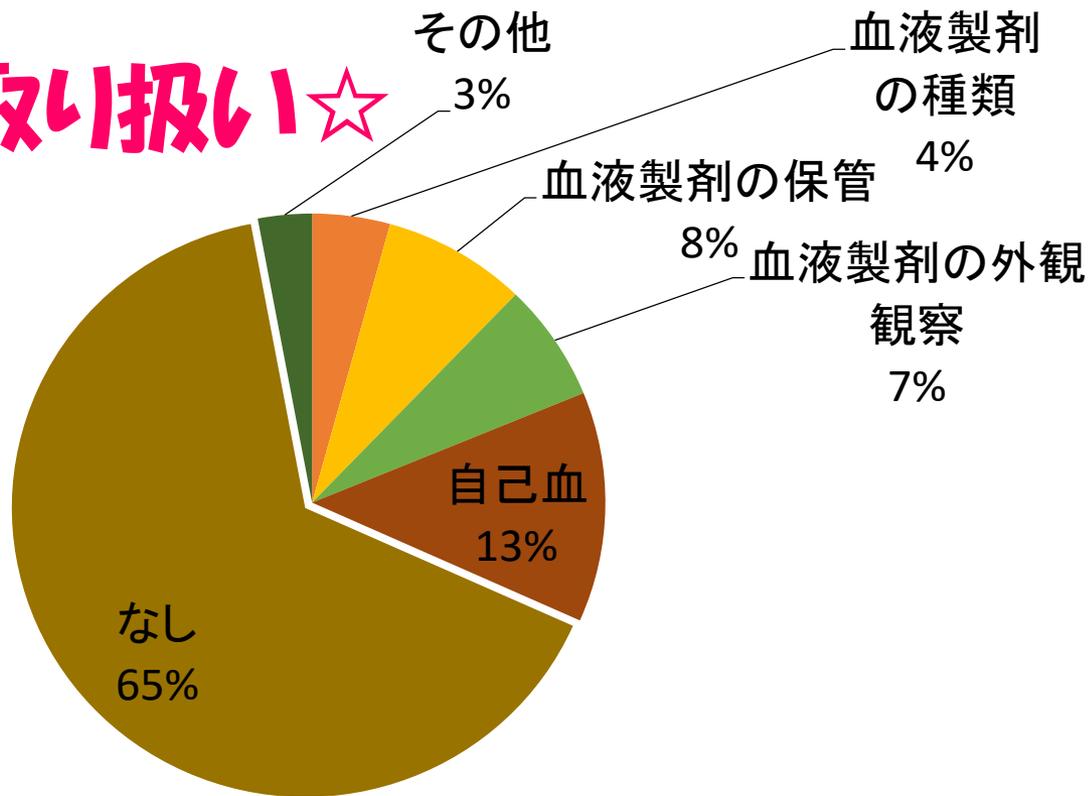
など・・・

困っていること

# 結果③

## ☆血液製剤の取り扱い☆

半数以上がないと回答しているが、血液製剤に関する知識が不十分とされる。



### 具体的内容

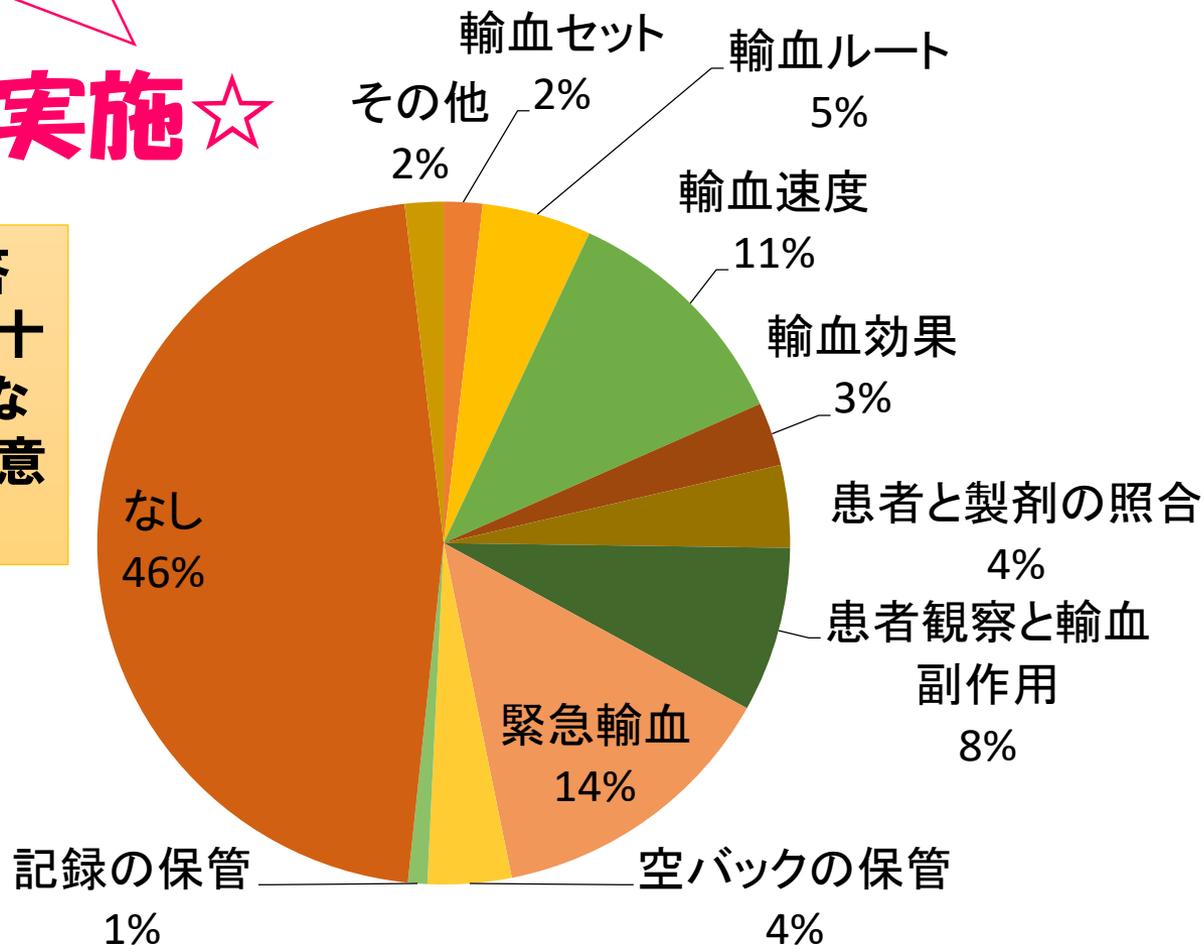
- ・夜勤帯の輸血が大変、副作用が怖い
- ・献血したものがどうやってきているのか分からない。
- ・頻度が少ないため、マニュアルを見て実施している。滴下速度など明確にしてほしい。
- ・外観の異常。ダメなものを見たことがないため、気付けるか不安。 など・・・

困っていること

# 結果④

## ☆輸血の実施☆

約半数がなしと回答しているが、知識不十分や輸血頻度が少ないことによる不安な意見あり。



### 具体的内容

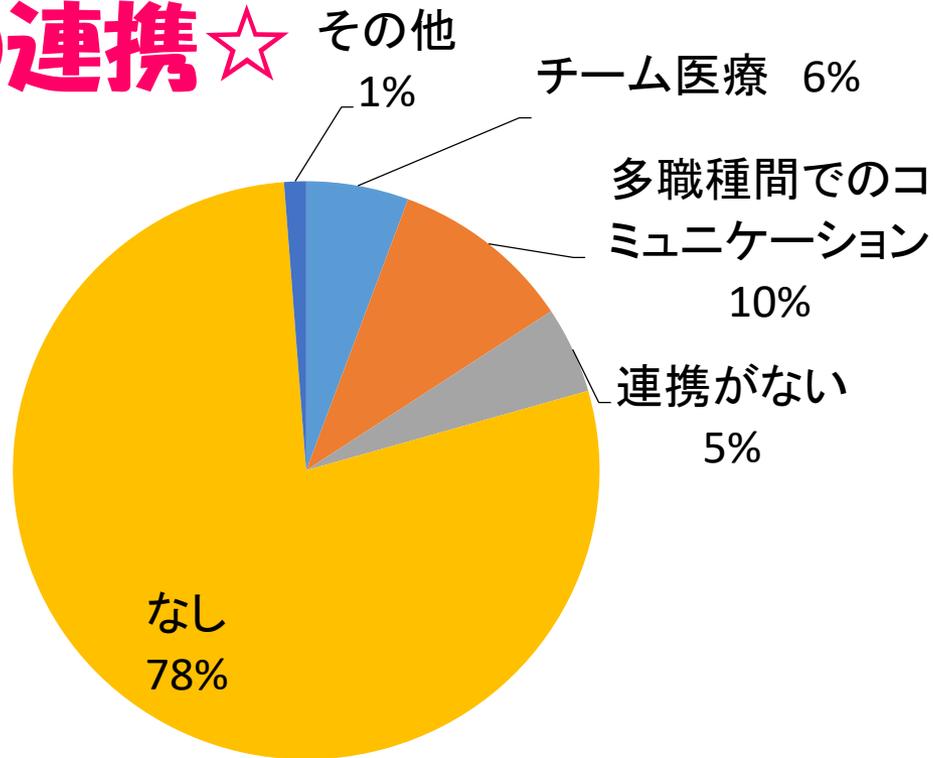
- ・手順に不安。(緊急輸血の対応、ルート困難時の対応など)
- ・実施前にある症状と輸血副作用との判断に悩む。
- ・T&Sの意味や洗浄PCの適応規準 など...

困っていること

# 結果⑤

## ☆他部門との連携☆

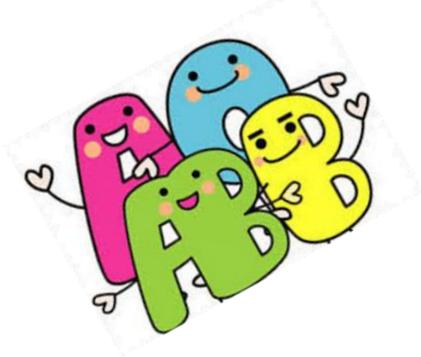
ほとんどが他部門との連携に困っていることがないと回答



### 具体的内容

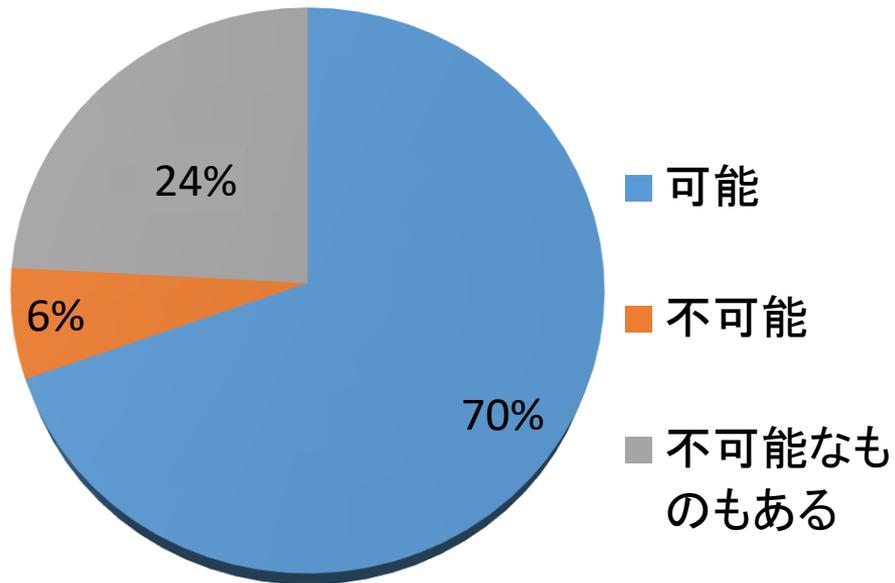
- ・医師との連携、コミュニケーション(輸血中止が分からない/指示がない、輸血オーダーの指示がない、緊急輸血の切迫感が伝わりにくい)
- ・DNR患者に輸血することについて患者や家族と話し合う機会をもつこと

など...



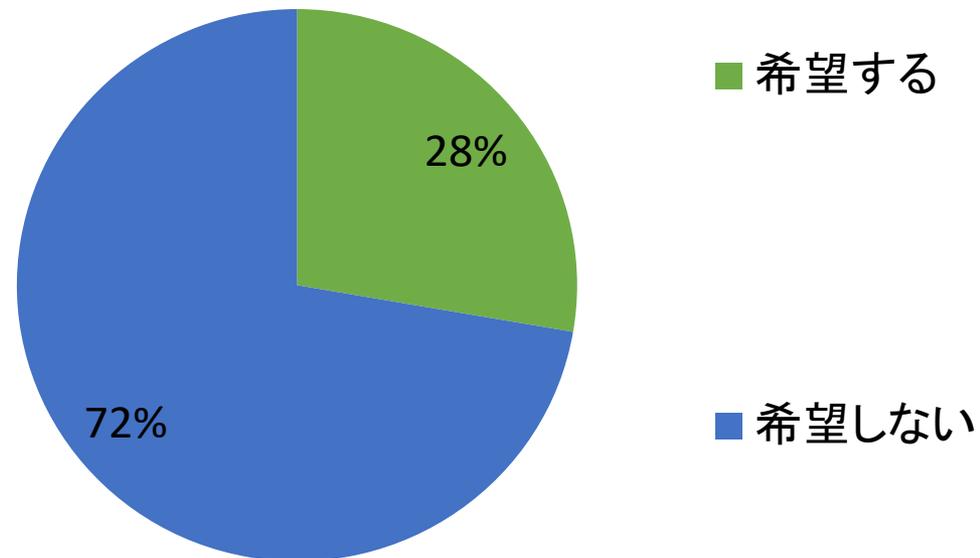
# 結果⑥

## ☆解決可能☆



ほとんどが可能と回答

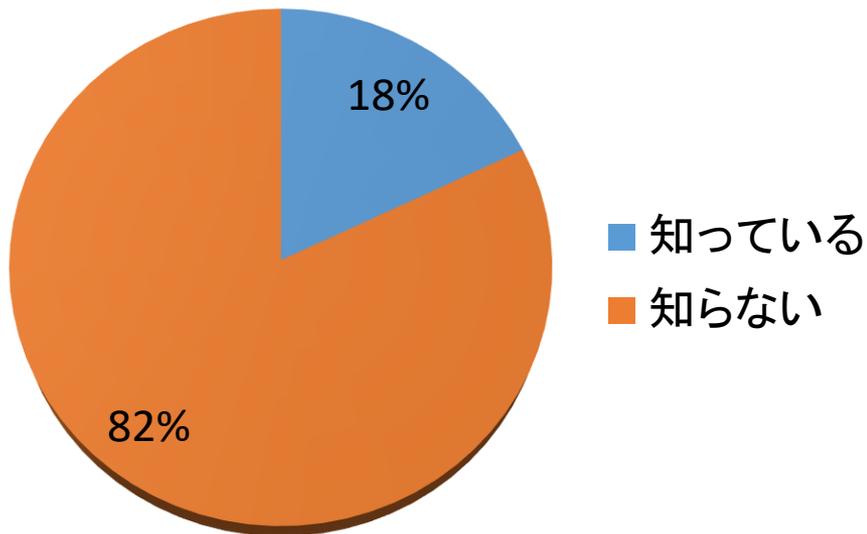
## ☆当部会対応希望☆



解決可能との回答多く、当部会対応は希望しないが半数以上

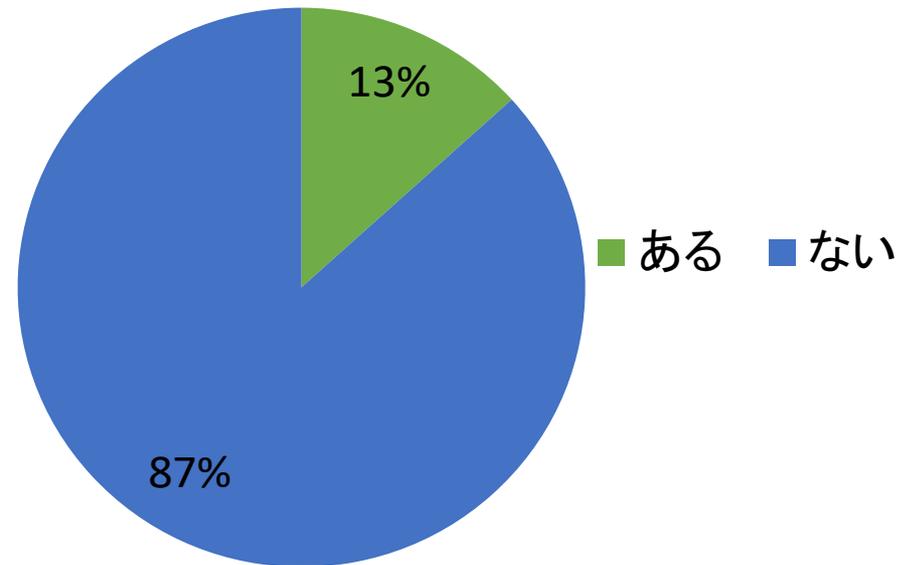
# 結果⑦

## ☆認定輸血看護師 制度の認識☆



ほとんどが知らないと回答しており、  
認知度が低い

## ☆認定輸血看護師 制度への興味☆



興味ないとの回答多く、輸血看護  
に対する興味が低い



# 結果⑧

## ☆当部会に求められる活動内容☆

- ・専門的な立場から必要となる知識を得られる研修
- ・新人に対する輸血療法研修
- ・模擬の輸血セットを使用して演習する
  
- ・輸血実施がスムーズで間違いの起きない流れを作してほしい。適正で安全な輸血療法の確立。
- ・現場の意見を集めて対策を立ててほしい。
  
- ・輸血委員会や認定輸血看護師の活動が知りたい、広めてほしい。
- ・部会報を出すなど、活動を知れる機会を作してほしい。



# 考察1

- **輸血頻度が大きくことになっており、輸血業務を経験していない中で輸血をしなければならないという場面に直面する看護師もいることから負担が大きい。**
- **輸血業務で困っていることはないとの回答が多かったため、各施設でのマニュアルの徹底や輸血に関する教育がされているのではないか。**
- **結果②～⑤では、輸血に関する知識不足やマニュアルの改善という回答もあり、研修会などの検討が必要である。**

## 考察2

- 各施設で解決可能といった回答が多かったのは、マニュアル改善や他部署との連携、知識不足による不安といった要因であるためと考えられる。そのため、当部会の対応は不要といった意見が多かったと考察できる。
- 当部会や認定輸血看護師の活動や役割を知らない看護師が多く、認知度が非常に低い(新潟県の認定輸血看護師は10名)。輸血医療に興味を持ってもらえるような活動や関わりが必要となる。

# 看護部会の今後の活動予定

## 研修会

- 今後検討が必要だが、現場のスタッフを教育できる機会を設ける

## 啓蒙活動

- 輸血委員会看護部会や認定輸血看護師の役割や活動を知ってもらう方法を検討

## 運用規約

- 現在看護部会の運用規約作成班で検討中の運用規約を完成、施行

# 看護部会メンバー



## ＊アンケート作成・集計班＊

◎ 県立新発田病院	久保 淳美
厚生連長岡中央総合病院	横山 智美
南魚沼市民病院	林 香織
県立中央病院	池田 園子
厚生連上越総合病院	宮川 敬子

## ＊看護部運用規約作成班＊

新潟大学医歯学総合病院	上杉 雅子
県立がんセンター新潟病院	八幡 多佳子
済生会新潟病院	阿部 弘子
厚生連村上総合病院	中川 友美
魚沼基幹病院	霜垣 美由紀
長岡赤十字病院	吉澤 真知子

